

## 1 1703年12月31日 関東地方で大地震発生！

1703年12月31日（元禄16年11月23日）の午前0時頃、真冬の深夜に突然、大きな揺れが関東地方を襲いました。いわゆる「元禄地震」です。地震はちょうど日付が変わる真夜中に発生したので、古文書や言伝えでは、11月22日とも11月23日ともいわれています。この地震は、高照寺過去帳に「前代未聞の大きな地震が・・・」とあるように、かなり大きな地震だったようです。しかも津波も発生し、「死者一万人余」とあるように、多くの犠牲者が出たことがわかります。

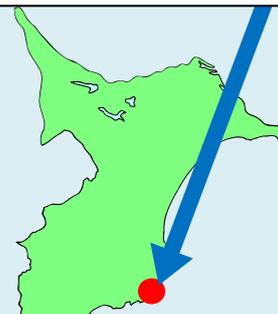
元禄年間は、「元禄文化」とも呼ばれたように町民文化が発展し、明るく活気のある時代として知られていますが、末期になると、元禄の大火や元禄地震などの災害が江戸を襲います。特に元禄地震は幕府の財政に大きな打撃を与えたばかりでなく、元号が「元禄」から「宝永」へ変わる一因になったともいわれています。

### 【過去帳（かこちょう）】



寺院で、所属している檀家で亡くなった人の戒名（法号・法名）、俗名、死亡年月日、享年などが書かれている帳簿のことで、多くは折り本形式になっています。各家の累代の記録が記述され、過去帳によっては死因や身分、生前の事跡などが詳細に記述されていることもあります。

津波被害を記録した高照寺（勝浦市）



### 高照寺過去帳の記録

元禄16年11月22日の深夜12時頃、前代未聞の大きな地震があった。大地が大きく裂け、数え切れないほどの建物が倒れた。そして深夜3時ごろには津波が押し寄せ、人や家が押し流された。安房上総だけで死者は一万人余り、全体では数え切れないほどの死者が出た。

防災誌「元禄地震」より引用

## 2 元禄地震の被害状況

### ①被害の概要

元禄地震では大きな揺れや津波によって、多くの死傷者や家屋の損壊、または土砂崩れなど大きな被害が発生しました。これらの被害の状況を記した公的な記録としては、当時江戸幕府の側用人であった柳沢吉保による「楽只堂年録」があります。そのほか、各地に残る供養碑、墓碑、古文書に記された記録などを頼りに、元禄地震の被害について多くの研究がなされていますが、現在のところ被害の大きさは確定されていません。

下表に示した「資料日本被害地震総覧」によると、元禄地震における死者数は1万人を超えています。その中でも、房総（千葉県）での死者数は全体の6割以上を占めています。「流家」とは津波で流された建物を示していますが、房総での被害が特に大きくなっています。このことから、房総の死者数には津波による死者もかなり含まれていることが容易に推定されます。

### 【元禄地震の被害一覧】

領地	死者数	潰	半壊	流家
甲府領	83	345	281	
小田原領	2,291	8,007		
房総	6,534	9,610		5,295
江戸	340	22		
関東駿豆（武士）	397	3,666	550	有り
諸国	722	774	160	668
<b>計</b>	<b>10,367</b>	<b>22,424</b>	<b>991</b>	<b>5,963以上</b>

※潰：家屋が潰れて全壊したものを含みます。古文書では「潰家」または「伏す」という表現で状況を示しています。

### ②津波による被害

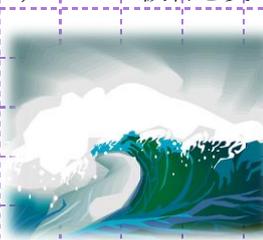
津波は、（現在の）銚子市から九十九里沿岸、南房総市、館山市、鋸南町などの沿岸市町村を襲いました。

被害が特に大きかったのは白子町・長生村・九十九里町などの九十九里沿岸で、これらの地域では少なくとも2000人以上が津波の犠牲になったといわれています。

また、鴨川市でも集落が壊滅したとも伝えられています。津波の波高は、館山市相浜や南房総市で10mを超えていたようです。

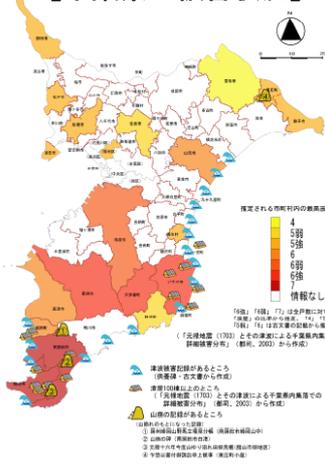
### ③強い揺れによる被害

押し潰された家屋の状況や数、土砂災害の状況から、地震の揺れは、房総半島で震度6～7と推定され、特に館山市と南房総市では「震度7」に相当する揺れがあったと考えられます。また、北総地域でも震度5程度の揺れはあったようです。「元禄十六年今度地震、山崩れによる田畑荒帳」によると、館山市畑地区では山崩れ、川岸崩れで約3,620㎡が被害を受け、約1,600mの地割れができた



記されています。山崩れについても、千葉県北東部の東庄町で、山崩れによって出水（湧水）が途絶えたため水の確保を巡って争われた記録が残されており、被害が千葉県に広くおよんでいたことがうかがえます。

### 【千葉県の被害状況】



防災誌「元禄地震」より引用